

令和3年度第2回 流山市環境審議会 議事要旨

日時： 令和3年7月30日（金）14時00分～16時00分

場所： 生涯学習センター（流山エルズ）B101会議室

出席委員：

朽津和幸委員、赤坂郁美委員、金森有子委員、佐藤秀樹委員、和田まつゑ委員、新保國弘委員、和田登志子委員、横田輝雄委員、井上菊夫委員、高橋信行委員、今井泰彦委員

事務局：

大島環境部長、伊原環境部次長兼環境政策課長、阿部環境政策課長補佐、近藤環境政策係長兼課長補佐、石橋主事、飯田主事

傍聴者：

なし

議題：

ア 市域における二酸化炭素排出量の現況及び分析について

資料：

資料1 二酸化炭素排出量現況及び増減要因の分析について

発言者	要旨
(議題ア) 市域における二酸化炭素排出量の現況及び分析について (資料1)	
事務局	<p>今回の議題は、二酸化炭素排出量の把握と分析だが、旧計画の基準年度である2007年度から直近の2019年度までの分析において課題が生じたため、この点を中心にお諮りしたい。</p> <p>市域の二酸化炭素排出量の算定には、資源エネルギー庁が毎年公表している総合エネルギー統計及び、都道府県別エネルギー消費統計を主に用いているが、最新の公表で推計方法が変更され、1990年まで遡って公表値が改定された。</p> <p>この改定に伴って、新たな都道府県別エネルギー消費</p>

統計等を用いて算定した市域の二酸化炭素排出量と、これまで流山市が算定してきた二酸化炭素排出量との比較を、同レベルで行っていくことが困難となったことから、2007年度（旧計画の基準年度）と2013年度（新計画の基準年度）に対して、二酸化炭素排出量の算定値の見直しを行いたい。

今まで通り算出シートに各統計の数値を入力すると、2018年度に比べて2019年度が相当低く算出されてしまい、適切ではないというふうに考えられる。

このことから、時期を二つに区切って考えたいと思う。

具体的には、「①2018年度までの排出量の検証」は、現行計画の推計手法により算定するものとし、「②2019年度の排出量及び基準年度との検証」については、現時点における最新の統計により算定し、基準年度との比較をより正しく行うために、2018年の最終エネルギー消費量の従来算定と改定統計値による算定を比較し、各基準年度への補正を行うことで、より精度を高めたい。

## 第2章 市域の排出量と削減目標

### 1. 市域の二酸化炭素排出量の現況

#### (1) 総排出量（P.1）

削減目標については今回の議題ではなく、次回のテーマであるため、次回は将来推計を行いながら、目標を設定していきたい。今回は現況の把握を行う。

市域の二酸化炭素排出量は、2011年度までは旧計画の短期目標である「2012年度までに9%以上削減」に向け順調に推移していたが、2012年度には逆に基準年度よりも5.4%増加となった。

2013年度から2018年度までは微増を続けている。この間にわが国では、2008年のリーマンショック等に始まる景気の落ち込みや2011年3月に発生した東日本大震災とその後の原子力発電所の停止などが温室効果ガス排出

量の増減に大きな影響を与えたと考えられる。

流山市単独で見ると、2005年のつくばエクスプレスの開業とその後の沿線開発、またこれに伴う人口の増加やそれに伴うサービス業等の拡大により、特に民生家庭、民生業務部門が増加傾向にあるといえる。

11行目以降については、「2018年度の排出量は、旧基準年度の2007年度比並びに本計画の基準年の2013年度比において増加傾向となっており、計画目標の達成は難しい状況にあります。」と変更したい。下のグラフから、横ばいではなく増加傾向にあることが確認できる。

ページ下部には、旧計画年度の2007年度から2018年度までの二酸化炭素排出量を示した棒グラフと、部門ごとの二酸化炭素排出量を記載した表を掲載している。

## (2) 部門別の排出量 (P.2)

旧計画基準年度の2007年度から2018年度までについての部門別の二酸化炭素排出量の推移のグラフを掲載している。

民生家庭、民生業務部門が長期的には増加傾向にあり、運輸、産業部門は横ばいとなっていることを示している。

## (3) 2019年度の排出量及び基準年度との検証 (P.3)

補正後の二酸化炭素排出量算定結果についての表を掲載しており、2018年度を軸に、新旧の値で計算したものを補正係数として、2007年度(旧計画基準年度)と2013年度(新計画基準年度)に適用させて増減率を記載している。

上記補正を行った排出量と旧来流山市で計算してきた排出量の比較を行ったものが、下のグラフである。

新旧の補正を行って審議したとしても、増減の傾向は同様であることが分かる。

2019年度の「旧」の部分については、各種統計が改定

済のものしかないため、表現することはできず空欄となっている。

(P.4)

P.3 のグラフの「新」の部分を抽出して比較したグラフを掲載している。

算定見直しの結果、2019 年度の排出量は 2007 年度と比べ 0.2% の減少となったが、旧計画の目標である 2020 年度までに 2007 年度比 3.8% 削減の達成は困難である。

下部円グラフは、2007 年度と 2019 年度の部門別の二酸化炭素排出量の割合を比較したグラフである。

2019 年度の部門別の比率では、民生家庭部門が 33% と最も多く、運輸部門 28%、民生業務部門 24% と続き、産業部門は 12%、廃棄物部門は 3% となっている。

6 行目以降については、「産業部門が大きく減少した一方で民生 2 部門はいずれも増加しており、依然として 2 部門合計で全体の約 6 割を占めています。」と変更したい。民生 2 部門について「減少」という言葉が入っているが、民生部門は「増加」しているため修正。

旧計画の目標達成が極めて困難である。

民生部門が増加傾向にあることから、その部門に働きかけていく必要性がある。

(P.5)

今までの現況の把握に関連して、コラム的に表現をしたいと考えている要素である。

1 つ目は、人口が増加している流山市にあっては、二酸化炭素排出量の削減に少しハンデがあるため、人口 1 人当たりで見るとどうなるかを表したグラフである。数字としては減少傾向が見られ、少し明るい話題になるのではないかと考えている。

	<p>こういった話題が、一人ひとりの削減意識に繋がるということを期待している。</p> <p>2つ目は、東京電力の排出係数の推移を示したもので、市域の二酸化炭素排出量の減少にも関係する要素であるため、1つの話題として記載することを検討している。</p> <p>その他少しスペースがあるところには、市民の方に興味を持っていただけるようなテーマをいくつかピックアップして、コラムを載せることを検討していきたい。</p>
新保会長	事務局から説明があったが、質問や意見等はあるか。
横田委員	<p>クリーンセンター全体の電気消費量、燃料消費量、ゴミの焼却量を同時に毎月公表いただきたい。毎月の公表値を速報値としてまずホームページに発表して、後日確定した数字を発表という形でいいのではないか。</p> <p>半年、一年たって公表というのは、ちょっとリアルタイムではない。</p> <p>朝自分で体重を測って、それでもしも多かったら夜食べる量を減らすという考えを持つように、二酸化炭素排出量が多ければ減らそうという考えを持つのではないか。</p> <p>市民に対して見える化ができてないのではないかというふうに感じる。</p>
伊原次長	クリーンセンター等の情報の開示が遅いという話が増えていることは聞いている。情報の開示は必要になってくると思っているので、できるだけそういったことができるような形で検討はしていきたい。
金森委員	今回のこの二酸化炭素排出量の計算は、どなたが行ったものかお伺いしたい。
事務局	コンサルにやっていただいたものがメイン。過去のものとの比較作業等については市も行っている。
金森委員	この計算は、環境省が作成しているマニュアルに従って計算したというふうに理解してよろしいか。
事務局	環境省の最新のマニュアルに従って行っている。

金森委員

環境省でも自治体別の排出量を算出しており、数字やグラフを公開している。

確かに環境省のデータは、総合エネルギー統計や都道府県別エネルギー消費統計の改定を踏まえたものではないが、その変更点等を考慮しても、流山市が使っている算定ツールが間違っているのではないという懸念を抱いている。

環境省のホームページ等から確認できる自治体別排出量の傾向と流山市が今回出してきた排出量の傾向が異なっている。

統計の改定等が行われると、数字そのものが変わるが、過去に遡って同じように変わるため、傾向自体が変わることはあまりない。

流山市がどの方法を用いて何の計算をしたのか心配になっている。どのようなやり方をしている、何で違っているのかということ、まず、もう一度ご確認いただきたい。

流山市が絶対に間違っているとは、今の時点では言い切れないが、環境省等が出しているものを見ると、流山市の人口増を踏まえても、二酸化炭素排出量が減ってきている部門が見受けられる。少し傾向が違っていて、説明も少し変わってくるのではないかと思う。

資料の中に複数のグラフがあり、全て同じような色を使用しているにも関わらず、グラフによって部門ごとの色が変わってくるのは非常に紛らわしい。部門ごとに色を決めて統一した方がわかりやすい。

統計のデータが変わったということで、新旧のデータを提示いただき、過去の比較については旧データのまま使用し、新しい計算については新データを使用するというような説明だったが、やはりわかりにくいと思う。

総合エネルギー統計等を見ると、やはり3年おき程度で改定されており、そのたびに数字が変わってきている。

	<p>それはそういうものとして割り切って、どちらかに統一してデータを示した方が良いのではないかと思う。</p> <p>過去に出した報告書と違うと言われたら、使用しているデータが計算方法を変えたため、と一言書いておけばよいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>環境省が作成しているものをこちらで把握できていなかった。それを見て比較検討が必要であると思う。</p> <p>流山市の計算が間違っているのではということになると、今までの計算のツールが実際のものから少し乖離しているのかもしれないので、検証の時期かもしれない。今一度データを見ながら確認をしたい。</p> <p>色の統一については、今後ご指摘いただいたようにしたいと思う。文字で長く書くよりは、しっかりとしたグラフや見せ方が、一般の方には必要であると思う。</p> <p>区切らないでどちらかに統一した方がよいのではないかという点については、どういうふうに見せれば分かりやすいのかというところで、皆様からご意見を頂戴できればと考えている。</p>
朽津委員	<p>環境省が出しているものと、流山市が計算したものが違ってるということになると、市民の中で比較検討する方がいた場合に混乱をもたらす。</p> <p>問題点を整理するとともに、流山市が算出した排出量と、環境省が各自治体に対して公表している排出量が、どのようなデータに基づいてどのように算出されているのか、大まかで良いのでその外枠の部分をご提示いただきたい。</p>
新保会長	<p>数字が出てしまうと、我々素人はそういうものだと思ってしまう。</p> <p>環境省と資源エネルギー庁で、それぞれさまざまなデータ等を出していると思うが、どのような違いがあるのか、金森委員にご教授いただきたい。</p>
金森委員	<p>温室効果ガス排出量の計算にあたっては、そのエネルギー</p>

	<p>ギーをどれだけ使用したかということから計算していく。</p> <p>エネルギーのデータは資源エネルギー庁が出している統計を使用しており、環境省が出しているものも、資源エネルギー庁が出しているデータを基に計算したものである。</p> <p>自治体別のデータはなく、一番細かいもので都道府県別のデータまでしかないので、流山市の場合は、千葉県のデータを参考に変数を決め、その割合から流山市の排出量を計算していく。</p> <p>手法については、環境省が作成している実行計画作成のためのマニュアルに記載してあるので、恐らく市は、この作業をしたのではないかと思う。</p> <p>さまざまなところからさまざまな統計集めてきて計算する必要があり、大変かつ手間がかかることから、かなり不評だったため、環境省が全ての自治体の算出結果を、ホームページで公開するようになった。</p>
<p>和田（登） 委員</p>	<p>今まで自治体がさまざまな工夫をしながらやってきたものと、国がやっているものとの差が出てきてしまったという問題なのだと思う。ちょうど見直しをかけるのに良い時期なので、国が出したものに歩み寄りながら修正していき、全国的なものに近づけていく方がいいのではないか。</p> <p>金森委員がおっしゃったように、見やすくすること、文章を整えること、色等の表示を整えること等はとても大切。</p> <p>P.1の第2章1(1)の8行目と9行目に、「またこれに伴う人口の増加や」の次に「それに伴う」が続いており、同じような言葉が2回続いて出てくる。分かりづらいので、後に続いている「それに伴う」は削ったほうが良いのではないかと思う。</p> <p>細かな点だが、しっかりチェックしていかないと、あ</p>

	<p>やふやなものが出てきてしまう。</p> <p>P.4 の上部 3 行の算定見直しの結果というところも、3 行目が「困難である見込みです。」で終わってるが、文章の前後を入れ替えて、最後を「0.2%の減少となりました」に変更すれば、これは達成できなかったが、頑張っここまでの減少に漕ぎつけましたという、ソフトランディングするような文章に変えられる。</p> <p>P.2 の (2) の産業の部分について、2007 年から見れば非常に減少してるが、これについては触れていないので、「2007 年よりは減少してるが 2013 年からは横ばい状況です」のように、もう少しはっきりと記載した方がいいと思う。</p> <p>グラフの中の摘要や白抜きの部分の文字が薄くて見えないところがある。印刷した時に見えるような色を使って欲しい。</p> <p>P.5 のグラフラベルの「年度」に関して、上のグラフでは横並びだが、下のグラフでは斜めの表示になっている。また P.1 では、「度」だけが改行されて下に来てしまっていて目立つ。表示を整えた方がよい。</p>
新保会長	<p>文章をなるべく短くして、主語と述語等、文法がわかりやすい文章を作成してほしい。</p>
赤坂委員	<p>金森委員や和田委員がおっしゃったように見やすく、わかりやすく作成してほしい。</p> <p>旧計画の推計手法と新しい推計手法を並べて比較するのは、かなりわかりにくいと思う。</p> <p>環境省が出しているグラフが見やすい。色だけではなくパターンもそれぞれに変えたりして、白黒とカラーのどちらにも対応できるようになっている。まだ先の話かもしれないが、細やかな部分も検討した方がよい。</p> <p>P.5 の「1 人当たりの排出量を見てみると・・・」について、先程の市からの説明では、流山市は人口が増加しているため削減は難しいが、1 人当たりの排出量で見る</p>

	<p>と減ってきているんだということを、新たな対策に向けて市民をエンカレッジするためにコラムとして入れたいという話だったかと思うが、単に1人当たりの排出量で見ると減っているということだけがここでは説明されている。だからこういうふうに考えてみてはどうかという一言がないと、人口が増えているのに1人当たりの排出量は減っているならばこのままで良いのではないかと安心して、何もしなくても良いと考えてしまう方もいるのではないかと思う。もう一言、どういう意図でこういうグラフを入れたのかを加えた方が良い。</p>
井上委員	<p>市全体で総排出量を抑えようという議論と、1人当たりの排出量を抑えようという2つの議論があると思う。</p> <p>流山市の場合は人口が増えているため、人口増をどう考えるかということが非常に重要なポイントだと思う。</p> <p>先程ご意見にあったように、1人当たりの排出量が減っているからいいんじゃないかという議論も当然出てくると思う。そうでなければ、人口が増えている中で総量を抑えることは非常に難しい。</p> <p>人口が増えていく分を人口1人あたりで賄う。そういう政策論議が求められるのではないかと思う。市民の方の協力が得られるような、納得感が出るような施策をとらなければならない。</p> <p>10人中10人が理解するというのは非常に難しいとは思いますが、10人中8人ぐらいは納得できるような対策や、他の委員からのご意見にあった分かりやすいグラフにより、あまり頭を捻らなくても理解できる、納得感が得られるものを作成していく必要がある。</p>
高橋委員	<p>基本的なことで申し訳ないが、各部門の排出量の中に、民生家庭、民生業務、廃棄物等があるが、具体的にはどういったものを指すのか。民生家庭は一般家庭、民生業務はスーパーや百貨店等、家庭向けの事業を対象にした業態、廃棄物はクリーンセンターでのエネルギー消費か</p>

	<p>と推察はしているが、これは具体的にどういったところを対象としているのか。示したほうが理解しやすいと思う。</p> <p>人口増加と、1人当たりの排出量のグラフの持つ意味が今後重要になる。人口増加があと4～5年続くと言われており、それに対して1人当たりの排出量が減ってきてるのは確かだと思うが、18年、19年、20年は新型コロナウイルスの流行等によりテイクアウト等が増加し、1人当たりのごみの排出量が増え、焼却施設の負荷が大きくなっている傾向がある。</p> <p>1人当たりの排出量は確かに減って来てるのだと思うが、今後は各家庭でかなり注意していかないと、こういう傾向は出ないのではないかと思う。</p> <p>恐らく産業用の方は、対策も取りやすいかと思うが、各家庭の民生部門の対策は、個人の努力では難しいところがあると思う。そこに対して市がどのように働きかけていくのかが今後重要になるのではないか。</p> <p>先程の説明の中で、依然として2部門合計で全体の6割を占めているということだったので、「民生部門への働きかけが今後特に重要になります」等、その辺の説明も加えた方がよい。</p>
<p>新保会長</p>	<p>恐らく資料1の表書きの①と②をみると本日の議題は、2018年度までの排出量は現行の手法により算定し、2019年度は新しい手法により算定したいという、2つの方法に分けてやることについて承認をいただけるかどうかということがメイン。第2章については、あくまで次回の資料であると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長よりお話いただいたとおり、今回は算定方法に分けるかどうかお諮りしたい。ただし、P.1以降は算定方法を2つに分けた資料になっているため、どちらかに絞って一本で行くことになった場合は、もう一度それに沿った資料を作成する必要がある。</p>

新保会長	2 つに分けてやっていってきたいということについてご意見をもう少しいただければと思う
今井委員	<p>総排出量は絶対的なものではなく、いろんな場合で変わるということなので、2018 年度までは現行の方法で算出した数値で傾向を見るというふうに割り切って、これからについては、ご提案のあった方法の中で最適な方法を見つけて、排出量を削減していくというのがいいのではないかと思う。</p> <p>P.5 のところに基礎排出係数のグラフがあるが、どういう意図があるのかわかりづらい。排出係数が下がると二酸化炭素排出量が減るとか、排出係数の低い再生可能エネルギー等の導入に取り組んでいく必要がある等、もう一言あるといい。これだけ出されても戸惑ってしまうのではないかと思う。</p>
和田（登）委員	今出てきた排出係数のデータについて、数値が下がってる理由は、太陽光発電等の再生可能エネルギーが入ってきたからということなのか。見方がわからなかったのので教えていただきたい。
井上委員	資料にある通り、電気に関する二酸化炭素排出係数は、キロワットアワーの電気を作るのに排出される二酸化炭素量だから、排出係数が下がってくるということは、二酸化炭素排出量が減ってくるということではないか。
新保会長	東電では、下がってきているということ。
井上委員	<p>資料 1 の表書きについて、個人的にこれでいいのではないかと思う。過去のものまで補正して再度算出するのは大変である。</p> <p>補正值が正しいかはまた別の議論になるが、①の方法である程度傾向がわかるのであれば、事務局の提案を承認しても良いと思う。</p>
横田委員	どんな値をもって 2018 年までの廃棄物部門の二酸化炭素排出量を算定したのか、2019 年以降の新たなものは、どんな方法で算定するのか等、もう少し説明してい

	<p>ただかなければ、どちらが良いとか悪いとかいう以前に判断できない。次の資料の中で、使用したデータや算定方法等についてご説明いただければ判断しやすい。</p>
新保会長	<p>学術論文等もそうだが、その数値を出した時の方法やデータについてはきちんと記載しなければならない。</p> <p>これについても、さまざまな数字をどこから集めてきて、どのような方法で算出したかをきちんと記載した方が良い。</p> <p>コンサルの方からも、そういうことも含めて助言をいただければと思う。</p>
事務局	<p>どの値をどのように使用して算出したかというのは、非常に煩雑なことである。かなり入り組んだ統計等もあるため、そこについては検討の余地があるが、例えば廃棄物等、わかりやすいところは端的に示す方が、ご理解が得られるのではないかと思う。</p>
新保会長	<p>全部書く必要はない。文献の出典を記載しておけば良いのではないか。</p>
金森委員	<p>先程の排出係数の話について、1点フォローさせていただきたい。</p> <p>資料に記載の通り、排出係数は電気を作る時にどれぐらいの二酸化炭素が出てしまうのかということを示した係数である。</p> <p>元々、東日本大震災の前は、東京電力の排出係数は0.37あたりの数値だったが、震災により原子力発電が止まったことで、化石燃料由来の発電に切り換えたため、0.5を超える数値に跳ね上がった。</p> <p>この数値が0.37あたりから0.5以上に跳ね上がったため、電気を以前と同じだけ使用しても、二酸化炭素の排出量がどんと増えてしまうということが起きる。</p> <p>現在、2030年に向けて、排出係数を0.375ぐらいまでに減らしていくという目標が出ているため、東京電力についてもその数値を目指して、恐らく努力しているところ</p>

るかと思う。

先程おっしゃったように、太陽光発電や風力発電等の自然エネルギーがたくさん使用されたりすると、どんどん下がっていく数値である。

自分たちの生活とあまり関係がないと感じるかもしれないが、自然エネルギーの導入も、最近ではさまざまな問題があるため、実は私たちの生活に関係ないという話でもない。

排出係数が下がらないと、どんなに頑張っても、流山市のような、家庭部門や業務部門の排出量が多い自治体は、排出量の削減をどうすることもできないところがあるため、実は非常に重要な値である。

もう1点、最初に私が行った発言について1点だけフォローさせていただきたい。

環境省のマニュアル通りの推計方法で算定しているということだったので、それだとおかしいのではないかと発言した件について、排出量の計算は、必ずしも環境省のマニュアルに従う必要はなく、独自の推計をしても全く問題ない。

もし流山が独自の推計を持っていれば、環境省が算出している値と変わってくるのは当然のこと。ただその場合は、どのような推計をしてるのかをきちんと示しておかないければ混乱の原因になる。

P.5の「1人当たりの排出量を見てみると」のグラフについて、流山市の努力をどのように見せるかということは非常に難しいところであるが、ホームページ上で公開されているデータベース「地域 E-CO2 ライブラリー」が分かりやすいので紹介したい。コンサルが自治体別に、例えば世帯数が増えたから温室効果ガスが増えたのか、その他の活動量が増えて温室効果ガスが増えたのか減ったのか等、どういった理由で二酸化炭素排出量が増えたのか減ったのかという要因分解を全て計算してくれてい

	<p>るレポートのようなものがあるので、参考にしながら必要に応じてコラム的に掲載しても良いと思う。</p> <p>データを一本化するか別々にするかという議題について、流山市が独自の推計をしていた場合は、過去に遡っての計算は確かに大変だと思うが、もしただの計算ミスで、マニュアル通りに算出しているということであれば、環境省は過去に遡ってデータを全て出しているのので、流山市は苦勞することなく過去のデータも全て、新しい統計の方の最新のものではないが、その辺に基づいて計算されたものを入手できる。</p> <p>これからも、常に推計方法や算定方法が変わってしまうという可能性は出てくる。この時点で全て見直して、何か1つの方針で過去のデータも見て、比較しても良いのではないかと思う。</p> <p>1つのこういう計画の中で、2つの方法で算出したデータが混じるのは、混乱を来たす可能性が高いと思う。</p>
佐藤委員	<p>恐らく算出方法がいまいち分からないため、委員の方々の意見があっちに行ったりこっちに行ったりしてしまうのだと思う。最初にきちんと提示してもらって、それでどうなのかということで、審議を図ったほうが良いのではないか。</p>
新保会長	<p>資料1の表書きの審議事項について、算定方法を開示していただけないと、こういう方式がいいのかどうか非常にわかりにくいというご意見をいただいた。その点について事務局補佐にお伺いしたい。</p>
事務局補佐	<p>2018年度までの数字として市からお示しした部分は、旧来の計画の手法で行っている。</p> <p>算定用のエクセルシートがあり、そこに毎年度の数値を入れて作成してきたもので、現行の計画が作られた際の環境省のマニュアルに従った内容で作られている。</p> <p>その延長で2019年を出そうとした時に統計が変わってしまった上、直接比較ができないくらいに誤差が広が</p>

ってしまったため、混乱の元になってるかと思う。

自治体ごとの数値が環境省から出ているという話も確かであり、アクセスするとすぐ取り出せるようになっている。その数値を採用している自治体は幾つもあり、一番手軽に、しかも整合性のとれる数字が入手できるため、ひとつの適性の高いやり方だと思う

環境省のマニュアルの中にも幾つも選択肢があり、どの算定方法を選択するかによって数字は大きく変わってくる。

環境省が数値を公表しているにも関わらず、各自治体がそれぞれのやり方を取る場合が何故あるかという点、例えば、千葉県のように東京湾岸に大きなコンビナートを抱えている県と抱えていない県があったり、北の方の住民と南の方の住民で光熱の使用量が変わってきたり、地域によって差があるものが、全国をもとに案分してしまうと平準化されてしまい、場合によっては、この地域ではこんなに光熱を使用していないのにと、ほとんど工場はないのに何故数値が大きくなるのかということが生じるため、そこを避けるためにより実情に理屈として近い手法をとっていく場合がある。

幾つかある選択肢の中で、全てマニュアルに従っているが、結果として算出される数字大きく変わってくることもあるため、市の方にも幾つか案として提示している。どこを取っていくかということは、これからもう一度議論することになると思う。

本日、市が示したのは、あくまで現行計画がどのくらい進んだのかというところ。環境白書の中でも押しえていくべきところなので、市が出した数字を当方でも検証して、シートの間違いや統計の扱いについてお手伝いさせていただいた。

従来算出方法を今後使用できない部分があるというのは、なくなってしまった統計等があるため。新しい計

	<p>画では、推計の手法そのものを改定しなければならないので、その辺は今後市と協議をして、皆様にお諮りしていければと考えている。</p> <p>手法を開示するというについては何も問題ない。現行の計画で使用した手法については、確か現行計画の資料編の中に大体記載されていたので、それをご覧いただければと思う。新しい計画の策定方法については、市に全て提示するので、皆様にわかりやすい形で整理をして、お見せできればと考えている。</p>
新保会長	<p>そろそろ本日の審議の承認をいただけるかどうか最後の確認をしたいと思うがよろしいか。</p>
和田（登） 委員	<p>承認の前に、P.5の東京電力の排出係数のデータについて、ここに入れるべきデータではないと、先程の説明を聞いたときに思った。</p> <p>本日の資料は流山市の現状把握ということで、その資料として出てきているものではないということに、先程の説明を聞いて気が付いた。先程、この排出係数は計算の元となるデータであると説明をされたと思う。それがここに出てくるのは、非常に違和感がある。</p>
新保会長	<p>それでは、本日の議題についてご承認いただけるかお伺いしたい。</p> <p>環境省にしても資源エネルギー庁にしても、データの扱い方にはバリエーションがあると感じている。これではなければならないという範囲はあるようでないので、恐らく事務局は、流山市がこれまでやってきたことも踏まえて、資料1の表書きにあるように、2018年度までと2019年度以降の算定方法を分けてやってみてはどうかということで、議案に挙げたのではないかと思う。</p> <p>金森委員のご意見も非常に説得力があったが、できれば資料1の表書きの①と②のところの算定方法のような2つの分け方をもって、これからの作業を進めていければと考えているがいかがか。</p>

新保会長	それでは、審議事項についてはご承認いただいたということで、本日の審議会は以上とする。
閉会	